

## あ　い　さ　つ

沖縄県は多くの島々から成る離島県であります。したがって、沖縄の自然や歴史・文化は、それぞれの島の地理的環境や歴史的背景を視座にすえたうえで、トータルな意味での沖縄を考える必要があります。そこで、本館が県下唯一の総合博物館として機能している以上、それぞれの島の成立ちや生活形態の変遷過程を総合的に調査したうえで、学術的調査報告として記録を残すだけでなく、常設展示や企画展に反映させ、沖縄の自然や歴史・文化を点から面への広がりとしてとらえ、紹介しようという趣旨のもとに実施したのが総合調査であります。

沖縄本島那覇の西方40kmの洋上に点在する島々が慶良間諸島であります。同村は渡嘉敷村と隣接し、座間味、阿嘉、慶留間、外地、久場、屋嘉比などの島々からなって一村を構成しております。座間味村は、国の天然記念物に指定されているケラマジカの唯一の棲息地として有名ですが、近年、カラスバト（国指定）、マダラトカゲモドキ（県指定）、アカヒゲ（県指定）なども確認され、また、これまでに15ヵ所の先史・原史遺跡の存在が明らかにされております。

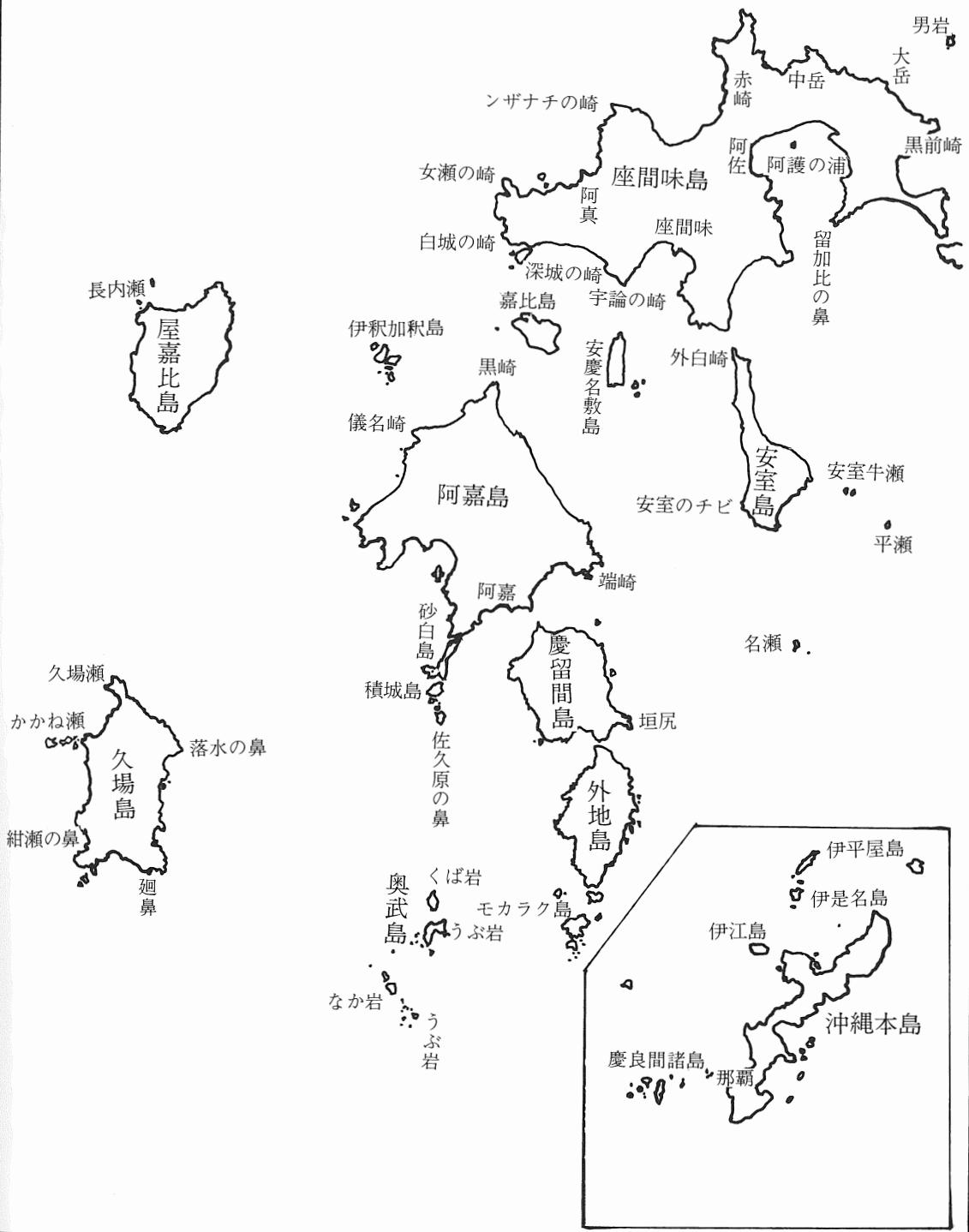
沖縄県教育委員会では、『天然記念物ケラマジカ調査報告書』（I～IV）や『古座間味貝塚—範囲確認調査報告書—』を刊行しておりますが、今回、当館で実施した総合調査は、主として座間味村の地質・動物・歴史・民俗・美術工芸の各分野にわたって、職員がそれぞれのテーマに基づいて調査研究した成果を収録しました。座間味村を理解する一助になれば幸いります。

最後に、今回の調査を実施するにあたっては、村当局や教育委員会をはじめ、村民の絶大なるご協力を得て、多大な成果を収めることができました。ここに厚くお礼申し上げます。

昭和58年3月

沖縄県立博物館々長  
大城徳次郎

## 座間味村全図



座間味村全図

